

2012年、日本、世界基金に最大額の貢献

ジュネーブ - 世界エイズ結核マラリア対策基金は、**2012年**、日本より合計**3億4千3百万USドル**の支援金のうちの第二区分を受領しました。日本の今回の拠出額は、過去**10年間**の日本による積極的な支援の中で最大額となります。

第二区分の**1億2千7百万USドル**の拠出に先立ち、日本は**3月**に第一区分として**2億1千600万USドル**を拠出しています。

「日本は今回の支援により、自らが病気に対する戦いのリーダーであることを再び示しました」とガブリエル・ハラミヨ (**Gabriel Jaramillo**) 世界基金事務局統括代表は述べました。

拠出金の支払いは、世界エイズ結核マラリア対策基金の理事会が、元米国グローバルエイズコーディネーターである**マーク R. ダイブル (Mark R. Dybul)** 氏を新事務局長に任命した**3週間後**のことでした。ダイブル氏は、**1月**に着任の予定です。

今回の貢献は、**2010年**の日本の最大拠出額、**2億4千7百万USドル**を遥かに上回るものでした。**2011年**、日本の拠出額は、去年**3月**、日本の東北地方を襲った地震・津波の影響を受け、**1億1千4百万USドル**に減額されました。しかし、今回の日本の貢献で、新たに日本の世界基金に対する強固なコミットメントが示されました。

日本は、今年**1月**にスイス・ダボスで開催された世界経済フォーラムにおいて、**2010年**の第三次増資会議で世界基金に対して確約した**8億USドル**一部として、**3億4千3百万USドル**を拠出することを約束しました。

玄葉外務大臣は「第二区分として**1億2千7百万USドル**の拠出によりダボスでの誓約を果たすことができたことを喜ばしく思う。今回の貢献は**マーク・ダイブル**氏の新たなリーダーシップに対する我が国の強固な支持を示している。世界基金の創設国として、**3つの**感染症から命を救うこと、ミレニアムデベロップメントゴールの達成を誓う」と述べました。

世界基金における日本のリーダーシップは、**2000年**、沖縄での**G8サミット**における世界金融機関創設の呼びかけを受け、始まりました。

今回の貢献により、日本の総拠出額は**17億4千万USドル**となり、世界基金に対する世界**5番目**の拠出国となりました。

セス・フェゾン (**Seth Faison**)